



防災のページ

問い合わせ 総務課 防災グループ ☎27-2481

融雪期の災害に注意しましょう

春にかけた気温の上昇は、雪解けを早めて「融雪災害」が起こりやすくなります。

屋根からの落雪・落氷や山間部などでの雪崩だけではなく、雪解け水による道路の冠水、河川の増水などにも注意が必要です。

また、気温の上昇に伴う雪解けに加え、低気圧の影響などによる大雨などが発生すると、急激に雪解けが進み河川の洪水や土砂災害などの危険度が增大するため、さらに厳重な警戒が必要となります。

屋根からの落雪・落氷・つららの落下

気温の上昇に伴い、雪や氷、つらが大きな塊となって屋根から一気に落ちてくることがありますので注意が必要です。

この時期、落雪の中には、氷の塊が含まれていることがあり、大変危険です。周囲に注意を払い屋根の下など危険な場所を歩かないよう注意しましょう。



道路の冠水など

気温の上昇や雨によって雪解けが進むと、凍結や雪に埋もれた排水設備の排水に支障をきたすことがあります。道路に大きな水たまりができたり、未舗装の道路などはぬかるんだ路面になるため、人も車も通行には注意が必要です。



河川の増水・洪水など

気温の変化で雪解けが進むと、河川が増水して危険な状態になります。さらに大雨が降れば、急激な水位の上昇や洪水の発生につながります。

災害をもたらす要因の一つに、「アイスジャム」と呼ばれる現象があります。これは、気温の上昇で川の表面を覆っていた雪や氷が割れて流出し、川の流れの遅い所（川幅の狭い所、蛇行した場所、橋脚部など）に詰まって川をせき止め、急激に水位が上昇する現象のことです。

平成30年3月には、美瑛町の辺別川で流下してきた雪や氷による死亡事故が発生しました。アイスジャムが決壊すると、一気に流下しながら被害をもたらす雪泥流の危険性が增大しますので厳重な警戒が必要です。



雪崩

山沿いでは雪崩が起きやすくなります。特に春先は、「全層雪崩」が発生しやすくなります。これは、気温の上昇で、積雪と地面との間にもろい雪の層ができたり地表部で雪解け水が流れることで、重くて固い斜面の雪がすべて地表から滑り落ちる現象です。

これは、斜面が約30～約55度、樹木が無い場所で発生しやすく、雪崩の速度は時速約40～80kmと乗用車並みのスピードです。

前兆として、斜面にしわや亀裂が入ったり、ボールのような雪の塊（スノーボール）が多い場所は、危険ですから速やかに離れましょう。



土砂災害

気温の上昇によって、土壌には雪解け水が染み込んでいるため、大雨が降った時と同じように土砂災害が起きやすくなっています。

前兆とされる地面のひび割れや水の噴き出し、斜面の落石などがある場合は、危険ですから速やかに離れましょう。

